

主治医の皆さま

登園許可書作成のお願い

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発生や流行をできるだけ防ぐことで、子どもたちが一日快適に過ごせるよう、下記の感染症について登園許可書の作成をお願いいたします。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が、集団での保育園生活が可能な状態となってからの登園であるよう、ご配慮をお願いいたします。

つくし保育園 園長 石原理恵子

保護者記入欄

つくし保育園 園長宛

園児氏名 _____

病名 いずれかに

<input type="checkbox"/> 麻疹(はしか)	<input type="checkbox"/> 溶連菌感染症
<input type="checkbox"/> インフルエンザ	<input type="checkbox"/> マイコプラズマ肺炎
<input type="checkbox"/> 風疹(三日ばしか)	<input type="checkbox"/> 手足口病
<input type="checkbox"/> 水痘(水ぼうそう)	<input type="checkbox"/> 伝染性紅斑(リンゴ病)
<input type="checkbox"/> 流行性耳下腺炎(おたくふくかぜ)	<input type="checkbox"/> ウイルス性胃腸炎
<input type="checkbox"/> 結核	(ノロ・ロタ・アデノウイルスなど)
<input type="checkbox"/> 咽頭結膜炎(プール熱)	<input type="checkbox"/> ヘルパンギーナ
<input type="checkbox"/> 流行性角結膜炎(はやり目)	<input type="checkbox"/> RSウイルス感染症
<input type="checkbox"/> 百日咳	<input type="checkbox"/> 帯状疱疹
<input type="checkbox"/> 腸管出血性大腸菌感染症 (O157・O26・O111など)	<input type="checkbox"/> 突発性発疹
	<input type="checkbox"/> 伝染性膿痂疹(とびひ)
	<input type="checkbox"/> その他

登園許可書

担当医師記入欄

すでに症状も回復し、裏面の「登園のめやす」に基づき、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。

令和 年 月 日

医療機関 _____

担当医師名 _____

Ⓜ (又はサイン)

症病名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発疹出現の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状がある期間 （発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで
風疹(三日ばしか)	発疹出現の7日前から後7日くらい	発疹が消失してから
水痘(水ぼうそう)	発疹出現の1~2日前から痂皮形成（かさぶた）まで	すべての発疹が痂皮化（かさぶた）してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	（お） 発症3日目から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺又は舌下線の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
結核		感染のおそれがなくなってから
咽頭結膜炎(プール熱)	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消えて2日経過してから
流行性角結膜炎（はやり目）	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（抗菌薬を決められた期間服用する。7日間服用後は医師の指示に従う）
腸管出血性大腸菌感染症（O157・O26・O111など）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が科確認されたもの
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24~48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な公金治療を開始する前と開始後数日	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日後	発熱や口腔内の水疱、潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること
伝染性紅斑(リンゴ病)	発疹出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 （ノロ・ロタ・アデノウイルスなど）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているので注意が必要	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事が摂れること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1カ月程度ウイルスを排出しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱、潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある期間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮化（かさぶた）してから
突発性発疹		解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと
伝染性膿痂疹（とびひ）	顔や手足等に水疱ができ、皮膚の色々な場所に移っていきやすい	とびひが乾燥して、痂皮化（かさぶた）が自然に脱落するまで